

各位

上場会社名	日本板硝子株式会社
コード番号	5202
本社所在地	東京都港区海岸二丁目1番7号
代表取締役	藤本勝司
問合せ先	責任者 広報・IR部長 藤井一光
電話	03-5443-9505

新中期経営計画（2007年4月～2011年3月）の策定について

当社は、2007年4月から始まる4カ年の新中期経営計画を策定しましたのでお知らせ致します。

記

1. 長期ビジョン、及び今回の新中期経営計画の位置づけ

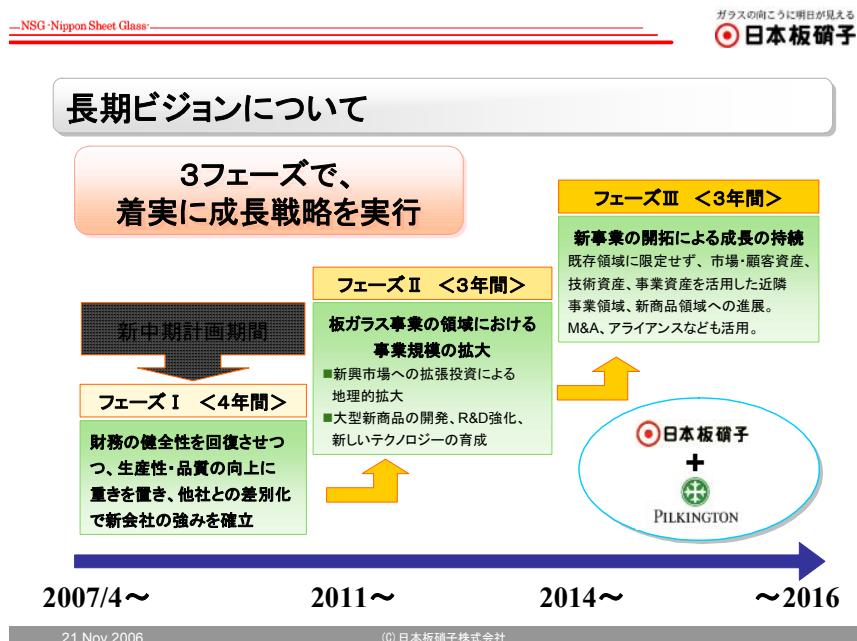
当社は、本年6月に英国ピルキントン社の買収手続きを完了し完全子会社化したことで、当社の事業構造のみならず、当社の置かれた環境条件や対処すべき課題についても、大きく変化しました。

こうした中、新しい日本板硝子グループは、グローバルな競争の増大、事業環境の急速な変化、企業の社会的責任の増大といった経営環境の中で、完全子会社化したピルキントン社との統合効果を最大限に発揮していくための施策を推進すべく、全社を挙げて取り組んでいます。

統合後に定めた長期ビジョンの中では、「事業は人なり」の価値観を全世界で共有化し、事業規模、財務内容ともに世界ナンバーワンの板ガラスメーカーになることを目指して参ります。

また、当社の事業分野は、建築用板ガラス分野、自動車用板ガラス分野に限定されることなく、情報電子分野、硝子繊維分野、さらには当社の持つ市場資産、技術資産、事業資産における優位性をより一層高めることによって、長期的には事業分野のさらなる拡大を図って参りたいと考えています。

この事業目標を達成するため、2007年度～2016年度までの10年間に取るべき戦略を3段階に分けて実施することとしています。



今般、この第1段階に相当する2007年4月から4年間の中期計画を策定し、その中で当社は、財務の健全性を回復させつつ、生産性・品質の向上に重きを置き、競合他社との差別化を図ることで当社グループの強みを確立して業績を拡大させることを目指します。

目標

目標

- ◆ 財務の健全性回復
- ◆ 生産性・品質を極限まで高め、他社より優れた存在になること

実現すべき4つの項目

- 品質・コスト・顧客サービス等における優位性や強みの一層の強化
- 予算・目標値の達成
- Phase2以降の成長に向けた投資の選択と集中
- 財務目標値 (Net Debt Ratio) の達成



21 Nov.2006

©日本板硝子株式会社

2. 連結業績目標 <最終年度 2011年3月期>

	<2006年3月期実績>	<2011年3月期目標>
売上高	2,659億円	9,000億円
営業利益	84億円	550億円
当期利益	78億円	310億円
ROE	3.3%	6%以上

3. 事業別の取り組み

- ① 建築用ガラス事業
 - ▶ 成長性の高い新興市場での優位性確保
 - ▶ 先進市場では、両社の持つノウハウの相互融通により、高機能ガラス事業を強化
- ② 自動車用ガラス事業
 - ▶ 売上シェア・品質で世界No.1、コストで地域No.1
 - ▶ 世界同一品質、同時立ち上げ
 - ▶ ミニマムの設備投資で生産能率、稼働率を向上
- ③ その他の事業
 - ▶ 情報電子分野：既存ビジネスの安定キャッシュフローをベースに次世代商品開発を継続
 - ▶ ガラス繊維分野：ニッチマーケットでの優位性の強化と国際的連携強化

<ご参考>当社が目指すべき事業の姿、基本戦略

目指すべき事業の姿

事業規模と利益・財務成績において、
世界No.1の板ガラスメーカーになる

NSG+PLK → 真のグローバルリーダー企業を創造

- 商品・サービス・生産技術における絶え間ないイノベーションの追求
- 両社の持つ人材と技術を最高、且つ最大限に活用

- 顧客に信頼される企業
- 従業員に働きたいと思われる企業
- 株主に優良な投資先と思われる企業

21 Nov.2006

©日本板硝子株式会社

基本戦略

NSG+PLK

市場資産 技術資産 事業資産

- 3つの資産の最大限活用&発展 → 中長期に亘る事業領域の拡大
- 短期的Cashflowと中長期的事業発展に向けた施策のバランス

世界No.1のガラスメーカー実現へ

21 Nov.2006

©日本板硝子株式会社